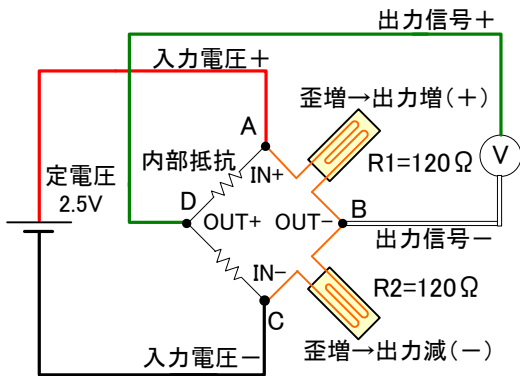




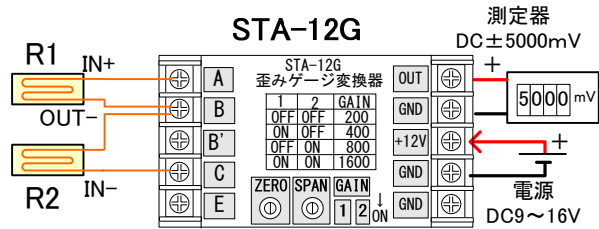
# 2ゲージ法のひずみゲージブリッジ結線方法

## 【2ゲージの結線】

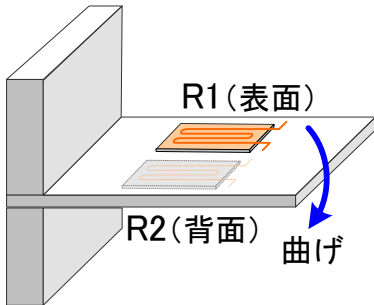


## 【実際の結線:2ゲージ120Ω3線式】

出力信号電圧を800(200~1600)倍に増幅

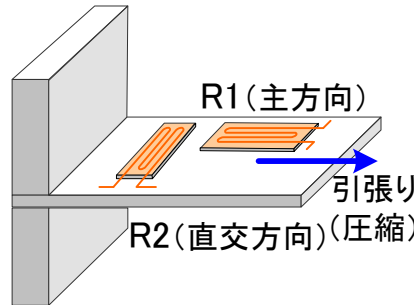


### ①2アクティブゲージ法 (表裏配置、曲げ測定)



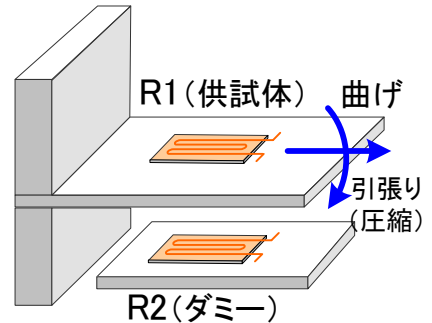
温度影響と引張成分を除去し、曲げ成分を測定。ひずみのアンプ出力は、実際のひずみの2倍。

### ②2アクティブゲージ法 (直行配置、伸び測定)



温度影響を低減し1軸応力を測定。アンプ出力は実ひずみの(1+ν)倍。  
ν:ポアソン比  
(鋼材で0.28~0.3)

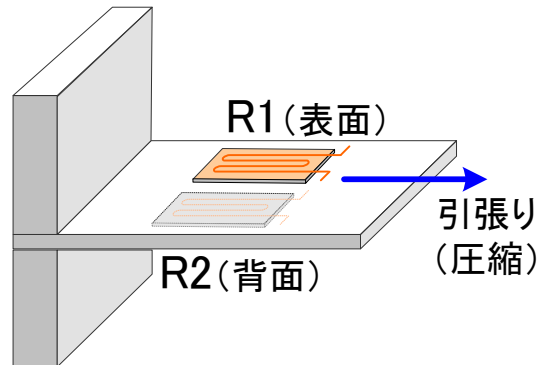
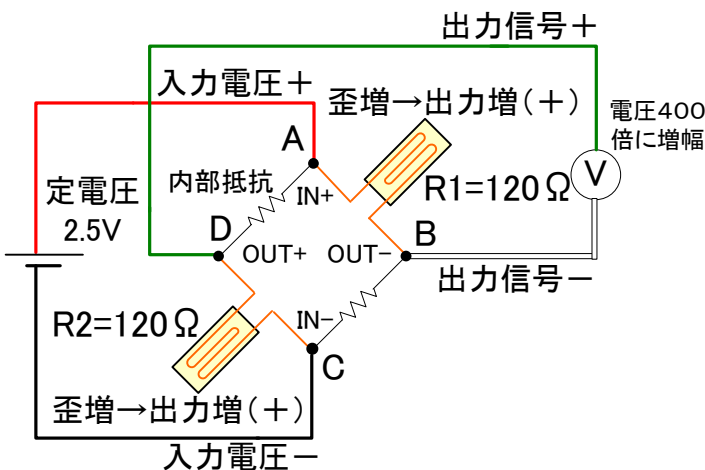
### ③1アクティブ+ 1ダミーゲージ法



温度影響を低減し引張・圧縮や曲げひずみを測定。ひずみの出力は、実際のひずみと同じ(1倍)。

## ✗ 使用できないブリッジ結線—対辺2アクティブゲージ法

STA-12シリーズは、ゲージをブリッジ対角線上に配置する「対辺2ゲージ法」は使えません。



曲げ成分を除去し引張・圧縮成分を測定。(ひずみの出力は実際の2倍になる)